・・・・**プログラム**・・・・

1部 ポピュラーアレンジ ・・・島崎洋の世界

・バロック風童謡メドレーによる『四季』
（岡野貞一他）
・マイ・メモリー（パク・ヨン・ウォン）
・エル・チョクロ（A.ピジョルド）
・イパネマの娘（A.C.ジョビン）
・ビートルズメドレー（ジョン・レノン他）

2部 北広島弦楽合奏団の真髄

・弦楽セレナーデ　ハ長調 op.４８
（チャイコフスキー）
第1楽章 Andante non troppo
第2楽章 Moderato.Tempo di Valse
第3楽章 Larghetto elegiaco - Piu mosso
第4楽章 Andante - Allegro con spirito
- Molt meno mosso -Piu mosso

3部 北広島の歌声とともに

・主よ 人の望みの喜びよ（Ｊ．Ｓ．バッハ）
・アヴェ・ヴェルム・コルプス（W.A. モーツアルト）
・花メドレー
花～みかんの花咲く丘～野バラ～
エーデルワイス～さくらさくら
・大地讃頌（佐藤眞）

<Stage1>

ポピュラーアレンジ・・・島崎洋の世界

これまでの定期演奏会で演奏したポピュラー曲の中から、印象に残る曲を集めてみました。

●バロック風童謡メドレーによる「四季」
「バロック風の試み」というステージテーマで演奏した曲です。四季の童謡・唱歌をヴィヴァルディの「四季」をベースとし、バッハやヘンデルの有名な曲のモチーフを引用しながら、バロック風にアレンジしてみました。

●マイメモリー
編曲にあたり、ヴァイオリンを多くのパートに分けてエコー効果を生む『カスケーディング・ストリングス』を試した最初の曲です。この奏法はマントバーニー・オーケストラのお家芸です。２コーラス目に出てきます。そのように聞こえるでしょうか？

●エルチョクロ
「タンゴの歴史」を扱ったステージの中で、アルゼンチンタンゴの代表曲として演奏しました。民族的でエネルギッシュな演奏になるよう、特にその側面を強調してみます。

●イパネマの娘
「世界のポピュラー音楽」というステージテーマで、ブラジルのボサノバの代表曲として演奏しました。ボサノバのリズムを弦楽器のピッチカートに置き換えた、少し変わった編曲です。

●ビートルズメドレー
・序奏
・ハードディズナイト
・抱きしめたい
・イエスタディ
・ガール
・ノルウェイの森
・オブラディ・オブラダ
・ロング・アンド・ワィンディングロード
・レット・イット・ビー
・ヘイ・ジュード
・終奏
ビートルズは名曲が多すぎて選曲に苦労した思い出があります。メドレー全体を一つの楽曲としてまとめられるよう意識して編曲しました。
●解説：島崎　洋（指揮）

・・・

<Stage2>

北広島弦楽合奏団の真髄

●弦楽合奏のセレナーデ　ハ長調　op.４８
（チャイコフスキー）
第１楽章　Andante non troppo
第２楽章　Moderato.Tempo di Valse
第３楽章　Larghetto elegiaco - Piu mosso
第４楽章　Andante - Allegro con spirito -
Molt meno mosso -Piu mosso

チャイコフスキーが４０歳の円熟期に作曲し、彼自身が「初演の日を待ちきれないほど、深くこの曲を愛している」と述べたという、会心の作品です。

第１楽章は「モーツァルトへのオマージュ」と呼ばれる楽章で、クラシック音楽番組『N 響アワー』のオープニングや人材派遣会社の広告で使用されました。序奏は、きわめてメランコリックで印象深く、広々とした第一主題と、軽やかな第二主題が続きます。

第２楽章は、これも NHK の番組『クラシック・ロイヤルシート』で使われました。単純な主題ですが、抑揚がつけられ、表情豊かです。次第に音量を落とし、静かなピツィカートで終わります。

第 3 楽章は「エレジー」と題された楽章です。最初の部分は短く、中間部が非常に長い構成になっています。上昇する音型の主題が反復され、甘いカンタービレで各楽器による掛け合いが続き、消え入るように終わります。

第 4 楽章ではまず全楽器が弱音器をつけ、「牧場には」というロシア民謡を演奏します。次に「青いリンゴの木の下で」というロシア民謡が演奏されます。ピツィカートの連続とチェロによる民謡風の旋律が鳴り響き、そして両主題が組み合わされ、盛り上がりのなかで全曲が終わります。
●解説：安達一幸（ヴァイオリン）

・・・

<Stage3>

北広島の歌声とともに

●主よ人の望みの喜びよ　（J.S. バッハ）
全 10 曲からなる教会カンタータ（オーケストラ付きの声楽曲）の中に含まれます。元からあったメロディーを元に、バッハが伴奏を付けてまとめたもので、第 6 曲目と第 10 曲目は同じメロディーでありながら、異なる歌詞で歌われます。第 10 曲目の「主よ人の望みの喜びよ」は、そのメロディーの美しさから日本でもよく歌われます。

●アヴェ・ヴェルム・コルプス
（W.A. モーツアルト）
ミサで歌われる賛美歌で、ラテン語で「アヴェ」は「歓迎」、「ヴェルム」は「真実」、「コルプス」は「身体」で、イエスキリストを讃える歌として歌われています。モーツアルトの他にも、何人かの作曲家が、同名の曲を作っていますが、モーツアルトが晩年に作曲したこの二長調（K618）が最も有名です。

●花メドレー　（編曲：島崎　洋）
・序奏
・みかんの花咲く丘
・野バラ
・エーデルワイス
・さくらさくら
・終奏
「花」の名前が付いた曲を集めたメドレーです。音楽協会の記念行事のために作られたもので、会場の『花ホール』を意識した作品です。オリジナルは木管・金管・各種打楽器等が入る大がかりな曲でしたが、本日は弦楽合奏、ピアノ、コーラスによる編曲で演奏します。

●大地讃頌
（詩：大木惇夫　曲：佐藤眞）
１９６２年に、混声合唱とオーケストラのための組曲として作られた「土の歌」の最終曲です。壮大なイメージのある「大地讃頌」は各種演奏会で独立して歌われることが多くなっています。
●解説：島崎　洋（指揮）・高橋文明（チェロ）